

1 開催日時 令和7年10月7日（火）午後7時00分から午後8時00分まで

2 場 所 本庁舎6階災害対策本部事務局室

3 出席者

(1) 委員（川崎市地域医療審議会災害時医療体制検討部会委員）

原田委員、小泉委員、井上委員、矢尾委員、土屋委員

（Web参加）下澤委員、三上委員、田中委員

(2) オブザーバー

川崎幸病院

川崎市病院協会、川崎市看護協会、川崎市薬剤師会、川崎市助産師会

メディセオ株式会社

神奈川県健康危機・感染症対策課

(3) 市関係者及び事務局

各区役所：川崎区、中原区、高津区、宮前区、麻生区

4 事務局

健康福祉局保健医療政策部 砂川部長、林担当部長、高橋課長、小野担当課長

廣井課長補佐、川島課長補佐、今井担当係長、内田主任

5 議題

(1) 新任委員の紹介令和7年度

(2) 災害時病院連携訓練について

(3) 新 EMIS について

(4) その他

6 発言内容

【高橋課長】 皆様、お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただ今から令和7年度第2回の川崎市地域医療審議会災害時医療体制検討部会（災害医療コーディネーター会議）を開催いたします。私は、本日の司会を務めます、健康福祉局保健医療政策部 災害保健医療対策課長の高橋と申します。よろしくお願いいたします。

この会議は現地参加とオンライン参加併用のハイブリット形式として開催していますため、音声は不明瞭になる場合などもあるかと思えます。事務局では複数の回線を用意し、不測の事態に備えておりますが、会議中に不都合な点がありましたら、チャット機能や事前にお伝えしました電話番号の 044-200-3934 に御連絡いただきますよう、よろしくお願い致します。

次に、オンライン参加の皆様は、発言の仕方など会議中の留意事項について3点御説明いたします。

1点目ですが、質疑の時間以外マイクはミュート設定でお願いいたします。発言者以外のマイクがオンになっている場合は、事務局でミュートにさせていただきますので、御承知おきください。2点目ですが、質疑

応答時間中の発言の際は、発言前にアプリ内で「挙手」のアイコンを押していただくか、カメラに向かって挙手をお願いします。発言希望者を確認した後、議長が指名いたしますので、指名をされた方はマイクをオンにして御発言ください。最後に3点目、本会議の傍聴は会場のみで可能となっておりますので、適切な情報管理の観点等から、本会議の開始後は原則として委員のみで御参加くださいますよう、お願いいたします。

それでは、会議開催に当たりまして、事務局を代表し、保健医療政策部長の砂川から御挨拶申し上げます。

【砂川部長】 保健医療政策部の砂川でございます。委員の皆様、お忙しい中、本部会に御参加いただきましてありがとうございます。早いもので、今年度半分が終わりまして残り半年ということになりました。私も当部会や研修や訓練など、こういったところを通した上で、情報というのは効率的に集める必要があるということと、平時からの準備というのは非常に大切と改めて感じたところでございます。本日、後ほどまた詳しい説明をいたしますが、訓練内容含めた議事となっておりますので、是非忌憚のない御意見をいただければと思います。挨拶は簡単でございますが、本日よろしくをお願いいたします。

【高橋課長】 ありがとうございます。

続きまして、会議の公開について御案内いたします。「川崎市審議会等の会議の公開に関する条例」第3条の規定に基づき、この会議は公開とし、会議録についても発言者のお名前を記載した上で公開させていただきますので、よろしくをお願いいたします。

また、同条例第7条において傍聴が可能となっております。現在傍聴者はございませんが、途中で申出がありましたら許可させていただきます。

続きまして、会議の成立要件についてです。本日は委員11名中7名の出席（その後、オンライン参加者1名を確認したため、計8名が出席）、委員の過半数を超えていることから、「川崎市地域医療審議会条例」第6条2項及び第7条5項に基づき、本会議が成立していることを報告いたします。なお、本会議にはオブザーバーの出席を可能としており、市内の災害拠点病院及び災害協力病院、本市との災害時協定締結団体、関係機関及び関係団体等から御参加いただいておりますことを申し添えます。

続いて資料の確認ですが、会場にお越しいただいた皆様には紙の資料を配布しておりますが、オンライン参加の皆様については恐れ入りますが、画面共有で御確認ください。なお、会議中、画面共有により資料を表示いたしますので、不都合等がございましたら、その都度、事務局までお申し付けください。

それでは、ここからの議事進行につきましては、原田部会長をお願いしたいと存じます。それでは部会長、よろしくをお願いいたします。

【原田部会長】 はい、ありがとうございます。

部会長をさせていただいております、川崎市医師会の原田でございます。皆様、よろしくをお願いいたします。早速ではございますが、議事に入らせていただきたいと思います。

《議事》

（１） 新任委員の紹介

【原田部会長】 まずは議事の1、新任委員の紹介ですが、今回川崎市医師会役員の改選により、委員の交代がございましたので御紹介させていただきます。

本日は残念ながら、欠席となっておりますが、小野田委員の後任で、川崎市医師会からの推薦により、馬嶋 正和委員が新たに就任されました。今後ともよろしくをお願いいたします。

（２） 令和7年度災害時病院連携訓練について

【原田部会長】 それでは続いて、議事の2に移らせていただきます。令和7年度災害時病院連携訓練について、事務局からの説明をお願いいたします。

【小野担当課長】 はい。それではDMAT調整担当の小野から御説明申し上げます。資料の1の実施概要と書

かれています面をご覧ください。今年度の災害時病院連携訓練は、12月7日日曜日の午前に実施することで考えております。昨年同様、南部北部を一緒に実施させていただきます。また内容も昨年と同様に研修形式で各病院をZoomでつなぎ、ディスカッションしていただくことで実施しようと考えております。参加の募集は10月31日までということで、募集をかけるところですけれども、基本的には全病院に御参加いただきたいと考えております。毎回、事前説明会をおおよそ1ヶ月前に実施しておりますが、今年度も10月31日金曜日16時30分からを予定しております。これもまたZoomで実施しますので、是非御参加いただいて、訓練の概要をさらに詳しく御説明いたしますので、よろしく願いいたします。また、訓練の中でディスカッションのファシリテーターを、今年度も川崎市内の日本DMAT隊員、または神奈川DMAT-Lの隊員にさせていただきたいと考えております。そのファシリテーターの研修を11月21日金曜日、17時から実施することで考えておりますので、こちらについてもよろしく願いいたします。ファシリテーターの募集に関しては、私の方から、別途、各病院に御案内しようと考えております。訓練の内容は先ほど申し上げた通り、Zoomでの研修形式ということで、こちらからテーマを与え、それに対してディスカッションし、発表いただく、または中でMCA無線やEMISを使って、実際に手を動かしていただくということをしたいと考えております。またアンケートも実施しますのでよろしく願いします。裏面に移らせていただきます。これも昨年用いた共通事項ということで御提示させていただいていますが、先ほど申し上げた通りです。訓練の想定はもしかしたら若干変えるかもしれませんが、概ねこの通りの内容で実施をいたします。例年、病院によっては少なかったり多く御参加いただいたり様々ですけれども、それも病院の御事情に合わせて可能な限りで御参加いただければなと思っておりますので、少なくとも参加されないよりは参加していただければと考えるところでございます。私からの説明は以上です。

【原田部会長】 ありがとうございます。

ただいまの御説明に対して、委員の皆様から御意見、御質問等ございますでしょうか。

【矢尾委員】 これのイメージは去年と同じ訓練内容ということでしょうか。

【小野担当課長】 はい。

【矢尾委員】 多分、当院から訓練に出すと思うのですが、事前説明もファシリテーター研修も両方出た方が良いですか。片方だけ、ファシリテーター研修だけでもいいでしょうか。

【小野担当課長】 ファシリテーター研修だけで大丈夫です。

【矢尾委員】 ありがとうございます。

【小野担当課長】 去年もそうしたのですが、事前説明会もファシリテーター研修も動画にして、またYouTubeで参照できるようにしようと思っておりますので、そちらを見ていただければ事前説明の内容は確認できると思っています。

【原田部会長】 はい、ありがとうございます。関係者の皆様、是非御参加のほど、よろしく願いいたします。その他何か御意見等ございますでしょうか。私から一点確認ですが、この訓練内容の3と書いてあるところに、EMIS中心の情報発信と情報の使い方とあるのですが、これは各自、例えばタブレット、パソコン等々を準備した方がよろしいでしょうか。

【小野担当課長】 病院の方でEMISが参照できるパソコンを御用意いただいて、実際に操作をしていただきたいと思います。今回の政府訓練、後ほど御説明しようと思っておりますけれども、そこでも色々使ってみて、病院の基本情報がしっかり入っているかどうかで随分と、災害時の対応が変わってくるということもありましたので、確認も含めてやっていきたいと思っております。なので、そういった環境を各病院で御用意いただくということを、参加の際にはお願いしたいと思っております。

【原田部会長】 ありがとうございます。それと、各病院は既にEMISを平時から状況入力していただいていると思いますので、ある程度使い始めていると考えているのですか。

【小野担当課長】 はい。適宜情報は更新していただいていると思いますが、細部の確認をこちらでもして

いますけれども、全て入力が見逃されているかですとか、改めて御自身の施設を確認する機会にしたいと思っています。

【原田部会長】 はい、ありがとうございます。災害時、情報が全てでございますので、EMISの入力につきましては、各病院で既に準備段階というか、使い始めているということで、御協力のほど、よろしくお願ひします。その他御意見御質問等ございますでしょうか。

【井上委員】 去年、この訓練に参加したうちのスタッフは非常に良かったと好評でした。一個ずつ確認しながら進めていただいて、すごく良かったと。是非今年もよろしくお願ひします。

【原田部会長】
ありがとうございます。好評だそうですので、是非是非皆さん参加のほどよろしくお願ひします。それでは、特にその他御意見ないようでございますので、今年度も訓練の実施の方は、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(3) 新EMISについて

【原田部会長】 それでは続きまして、議事の3番について、でございます。新EMISについて事務局から説明をお願ひいたします。

【小野担当課長】 はい、引き続きDMAT調整担当の小野から御説明申し上げます。この内容は前回はさせていただきましたけれども、先日、政府訓練が北海道、東北の主には太平洋側を舞台に実施されました。その時の訓練の内容がまだ残っていますので、皆様に共有できたらというふうに思っているのと、D24Hという国が作っている、避難所の状況ですとか薬局、福祉施設の状況に合わせて、EMISの内容も参照できるシステムについてです。D24Hは能登の時は避難所のことだけだったのですけれども、だいぶ進化してきているのが確認できましたので、共有したいなというふうに思ひます。まず、先日の政府訓練の時の状況をお伝えします。EMISのダッシュボードという最初の画面ですけれども、これにいろんな情報が集約されていて、現状、例えば円グラフの中でレコードとして支援が要るところ、要らないところ、どれぐらいあるのかっていうのがここで確認できます。特に赤いところが要支援ですけど、このグラフのここをクリックすると、画面が切り替わって要支援になっているところだけが検索できるようになります。今、訓練の中で117施設が、支援が必要という状況になっていて、例えば青森県の津軽地域に行ったので、津軽地域のこの6という数字をクリックすると、その6施設がパッと表示されるということです。その地域ごとに支援が必要な病院がどこで、その病院がどういふ状況でというのが表示されると。今まで結構探すのに手間がかかっていた、自分で数えて集計しなきゃいけない、検索はできるんですけど手間がかかるというところがあったのが、簡単に表示できるっていうような状態になったというのが今回の特徴ということになります。今までのやり方で言うと、状況モニターで医療機関の被災支援状況っていうのを押して、青森県を選び、二次医療圏を選んで、ということになるのですが、結構手間がかかっていたのが今みたいに簡単に表示できるようになったということになります。今回のEMISは、全ての病院と有床診療所が一覧の中に入ってきています。なので、例えば病院の状況だけを見たい場合には、病院のボックスにチェックしていただいて、有床診療所だけ見たければ、優勝診療所にチェックしていただいてということで検索をかけるということになります。今回の訓練には診療所は入っていませんでした。全ての病院が入力できているという状況にもなっていないですね。本来であれば、なっているはずというようなことがここで確認できるということになります。各病院のそれぞれどんな状況かを知りたいという時には、病院をクリックすると詳しく中身が確認できると。ここについては、今までのEMISと同じなのですが、一番下にオペレーションというところがあって、支援に入ったDMATがその施設にどんな支援が必要なのかというのを評価して入力するというのが追加されています。これによって、外から見たときに何が 필요한のか、燃料はないけど支援が必要なのか必要ないのかというところが、外からの評価として見るということになっています。トップページのダッシュボードに戻りま

すけれども、D24H というのがあってこれを押すと、D24H のトップ画面が映ります。メインとシェルターと EMIS というのがあり、シェルターを押すと避難所の状況が確認できる、EMIS を押すと EMIS の状況が確認できる、メインを押すと全体を切り替えながら表示できるというような画面に遷移します。例えば今 EMIS を見たので EMIS を押すと、今の状況が地図上にプロットされるということになります。今画面に映っているのが、D24H の本来のというかトップ画面になります。こちらには survey って言って、調査した時の入力するための入り口と、内容をアセスメント、評価するための入り口と、先ほどのダッシュボードなどいろんなボタンが用意されていますけれども、登録というのを押すと、どの訓練でどの災害で何を登録するのみたいなものが出てくるのですが、政府訓練を押すと、今から避難所の情報を入れませんか、福祉施設の情報を入れませんか、EMIS ですか、保健所ですか、薬局ですか、とこれだけの情報が今、この D24H というシステムに入れられるようになっています。EMIS というのを見ると、EMIS 帳票でどこの病院っていうものが出てくるのですが、例えば石巻で見ると、このように表示される、と。EMIS の情報がこの D24H にも共有されているということになり、これが先ほどお見せした地図上にも展開されるということが、本番環境だとそういう動きになります。同様に EMIS ではなく避難所というのを入れると、保健のラピッドアセスメントシートが入れられたり、栄養状態の評価ができたり、それともう一つ薬局があるの、入力画面に行くと口腔衛生の入力もできるという、かなり様々な情報をここに集約して、それを地図上にプロットできるというようなシステムに進化してきております。ただ、これをこういう使い方をしてくださいというアナウンスがまだ国の方から来ていないというのが実情で、これも訓練をやってそんなものがあるのだなというのが、わかったということです。これをどのように使っていくかという方向性は、まだ国からは示されてはいないですけれども、少なくとも避難所のラピッドアセスメントに関しては、能登でも使いましたので、これをおそらく統一化して使っていくものだろうというふうに思われます。薬局の情報ですけれども、これも薬局の緊急時入力、詳細入力、それと在庫のどんな薬額の在庫があるかというところまで入力できるようになっているようですが、川崎市の薬剤師会では別のシステムを今年度導入して、それもかなり優秀なシステムで、どの病院がどういう状況なのかは Google マップ上に展開できて、そのシステムの中で薬の融通を利かせるための操作、つまりどこの薬局に在庫が一杯あるようでしたら、どこかの薬局にそれを回そうとか調整ができるシステムを導入していただいと聞いています。

EMIS の他の機能についてですけれども、例えば DMAT の活動の状況が、チームとして被災地に行く時にはその状況を登録するというのを今までもやっていましたけれども、それ以外に救護班登録というのができて、この救護班登録では、この救護班の区分として JMAT、日赤救護班、国立病院機構ですとか、自衛隊もあったと思うのですが、様々な医療救護団体の登録がここでできるということになります。特に JMAT、日本医師会の派遣チームですけれども、こちらに関しても DMAT と同様にチーム登録をして、どの JMAT がどこで今どんな活動をしているかというのがこの EMIS で確認できるというようなものが実装されました。DMAT の隊員には、一人一人に EMIS に入るためのアカウントが付与されているのですが、他のチームに関しては、その団体にある程度の数の匿名アカウントというのが付与されています。災害が起こった時にそれを結成したチームに割り振っていくというような使い方をすると聞いています。実際、先日、川崎市で実施した総合防災訓練において、医師会の先生方にも、実はこの JMAT の登録をしていただいて、J-SPEED という被災地内の救護所にどんな患者がいてだったりとか、調査したりですとか、カルテを作成するというようなシステムがあるのですが、それを使うための準備までをしていただきました。このようにして、EMIS もこのシステムが、全ての支援団体が共有して使えるということに今回なったということです。さらにですね、その J-SPEED を使って、患者の個人情報を登録できるのですが、この個人情報を登録する場所がこの認証というところになります。これは誰が今操作しているかということを認証した上で、個人情報を取り扱うということで、患者の詳細情報を確認できる、カルテのような機能がここに実装されています。さらに、その患者をどこからどこに搬送するかという搬送調整もこれを使ってできるという状態になっています。今

回、その患者を搬送するには、その搬送のためのツールを実際に使ってみたんですけども、使う側の訓練に参加したチームが操作にあまり慣れていなくて、十分に活用はできてなかったのですが、テストでやってみたところ、結構便利に使えるようなシステムになるのではないかと感じたところです。十分に御理解いただけるような説明になったかは不明ですけども、実際に使ってみた感想としては、以前のシステムよりは、慣れれば使いやすいということと、DMAT だけじゃなく、いろんなチームが共有できるということは、かなりの進歩なのじゃないかなと感じたところです。私からは以上となります。

【原田部会長】 ありがとうございます。ただいまの御報告につきまして、何か御意見御質問等ございますでしょうか。

【矢尾委員】 すみません。確認ですけど、Join も使ってみたのですが、あれもルールがなくて、皆投稿していたので、能登の時も LINE で出勤ってなった時に、川崎も僕の後ろは聖マリアンナ医科大学病院であったりとかしたので、小野さんがいる LINE とかアンオフィシャルに作ってもらっているのですが、川崎市でグループを作っておいて、災害の時には DMAT は Join を見よ、みたいなことは考えていますか。

【小野担当課長】 Join は今のところ DMAT 隊員だけが使えているものという認識なので、今は説明しなかったのですが、秘匿性が高いというか、しっかりとしたセキュリティを持ったシステムというふうに聞いていて、実際、様々な医療機関で普段の情報共有のツールとして使っているものだそうです。なので、使えるとは思いますが、まだどこまでどうやって使っているのかとかは、説明はされていないので、まだこれを積極的に使おうとは思ってはいないです。

【矢尾委員】 小野さん言っている通り、日本 DMAT しか使えないので、僕もこの前の訓練、L とか連れて行くとき全部僕に来るのですよ。それを全部転送するのが面倒くさくて、気づいたら 40 件ぐらい入っていて、到着しましたとか、全部来ているから、これもちゃんとルールがないと危ないなと思ったので確認でした。

【小野担当課長】 ありがとうございます。しょうもない情報って言ったはあれですけど、本当にこれを送る必要あるかっていうものまで言う方が多くて、ただただ邪魔になる可能性もあるので、考える必要があると思います。

【原田部会長】 ありがとうございます。そのほか、何か御意見御質問等ございますでしょうか。結構大きな新規の EMIS ということで、僕らもまだあんまり操作してないので状況がわからないのですが、新 EMIS の方に入力していくと、今のお話だと自動的に D24H に反映されますよね。で、ちょっと D24H の方から入力した場合に、それは EMIS の方には反映されますか。

【小野担当課長】 EMIS への入力を D24H からできるのかという確認は実はできていなくて、それを許してしまうと混乱するのではないかなと思っているので、それはできないのではないかと考えています。国から公開されている情報があまりにも少なすぎて。

【原田部会長】 今後の運用の仕方次第ってことですかね。

【小野担当課長】 そうだと思います。開発されている先生も、言ってくれば実装できるみたいなことをおっしゃっているようです。だからシステムとしてはやれることはいっぱいあると思いますが、入力された情報をどうやって使うのかというのをしっかり考えないと、間違った情報が増えても困るので、そこは慎重にやってくれるだろうと思っています。

【原田部会長】 試行錯誤しながら、ということで今後に期待するってところですね。

【小野担当課長】 それと、今までの EMIS は DMAT が使うという前提で作られていたじゃないですか。それに対して、例えば日赤とか医師会とか看護協会に、ある程度の権限というか ID が振り分けられていて、その ID ごとに使える機能がどうやら違うらしいっていうのも聞こえてきています。なので、私が説明した内容そのまま、例えば JMAT の ID でもできるかどうか、先ほどの Join というのも、DMAT 隊員しか多分使えないと思うんですけど、そういうのもまだ多分にあるのかなというふうに思っています。

【原田部会長】 ありがとうございます。この新 EMIS とこの D24H との大きな違いということ、何になるんで

すか。

【小野担当課長】 D24Hは情報をここに集約させようっていうシステムで、EMISは医療に特化したシステムなので、入り口がEMISでそれをD24Hでいろんな機関が情報として参照できるというようなものになるんだと思っています。他に国が今開発しているシステムって結構いろいろあって、例えば国土交通省が集めた道路の状況とか空の情報とかいろいろあるのですが、そういうものを一元化しようというのがこの画面にある総合Webというものだと思うのです。ここに道路状況とかいろんな情報が入ってくるので、切り替えながら表示させて、全ての情報を一元化して共有しようというのを国は考えているようです。なので、どこまで行っても完成しないサグラダファミリアのようなシステムなんじゃないかなっていう気がしてならないところではありますが、これもただの感想なので、どういうふうリリースされるかわかりません。

【原田部会長】 ありがとうございます。

【矢尾委員】 すみません。当院に新システムの災害支援ナースが2人います。最近、アカウントが付与されたのだけれども、DMATよりも操作研修とかよくわかっていなくて、突然付与されたということで、みんなこれどうなるんだみたいな感じで。何かこれの情報持ってないですか。

【小野担当課長】 それぞれの団体が責任を持ってやれということのようですね。なので、このEMISのどうなっているかのなどの問い合わせも、今まではDMAT事務局だったのが、別な組織になっているというのが、その表れなのかなという気はしています。

【小泉委員】 あと、新しいEMISに関してなのですが、クリニックの情報とかの吸い上げというのはどうなっているのですか。基本的に病院じゃないですか。

【小野担当課長】 ここにはないです。

【小泉委員】 なるほど。例えば病院の機能がダウンした場合、最寄りのクリニックは生きている場合、その機能を分けたいじゃないですか。そういう情報ってここには上がってこないのですかね。

【小野担当課長】 今のところないです。ですが、D24Hがこれだけのことができていて、薬局の情報も入っているんで、クリニックもできるのではないかなと思うのですが。

【小泉委員】 例えば透析専門やっているクリニックがうちに来てるよみたいなものとか、欲しいですよ。

【小野担当課長】 欲しいです。先ほどお伝えした、薬剤師会が使っているeST-aidというものがかなり良くて、もちろんお金はかかるのですが。これをちょっと今度何かの機会に薬剤師会さんから教えてもらいたいとなって。実際行って1回見せていただいたのですが、何かの機会に皆様にも共有できる場を作れたらいいなと思っています。

【原田部会長】 ありがとうございます。システム更新、新しいものによって結構情報量が増えて、同時に同じようなシステムがいくつかあって、その中でこのツールなので、これは慣れていくしかない。もう使っていていきながら慣れていくしかないかと思っておりますので、機会ありましたら積極的にいじっていただいて、慣れていただくことが大事なのかなと思っております。その辺につきましては、御参加御協力していただいております各団体、病院関係を中心に頑張っていただきたいと思っております。ただ、病院の方もまだパスワードその他が付与されたばかりで、多分戸惑う。我々医師会の方もまだよくわかってない状態ですので、慣れるまで震災が起きないことを祈ります。

【井上委員】 やはり情報量が増えるだけにその操作を誰でもできるようにするのは大変かもしれず、そうすると”EMISオペレーター”というような専門的に扱える人がいて、その人を介してやるようなことにもなるかもしれませんね。実災害時に欲しい情報に確実にアクセスできるか、なかなか大変かもしれないですね。

【小野担当課長】 患者の搬送のシステムは慣れば便利なのだろうと思うのですが、その患者の情報を途中で変更するにはどうすればいいんだとか、細かい使い方がわからないところがあって。研修会とかをやってほしいのですが、それもなかなか自分たちでいじってみて、探ってみて、僕も完全にそういう状態なので、もし皆さん分かったら教えてほしいなと思います。

【原田部会長】　そうですね。どんなシステムかちょっと触れてみないとよくわからないので、ただ一応便利そうだとということで、積極的にいじっていただきたいなと思っております。その他何か御意見御質問等々ございますでしょうか。

【井上委員】　直近の訓練では、これを川崎で使う予定はありますか。

【小野担当課長】　一応その病院連携訓練の時は使おうというふうに考えております

【矢尾委員】　実際に横同士の連携で見るわけではないので、各病院がちゃんと入れてという訓練ですから。多分それだけだったら簡単ですよ。

【小野担当課長】　やはりチームの派遣という時に、実際にその派遣チームが使うっていう時に、いかに使いこなすかっていうところが課題だと思うので。僕も偉そうに話していますが、まだ全然察し切れていないので、情報集まったらまた訓練等々で共有していきたいなと思います。

【原田部会長】　ありがとうございます。Zoomで参加の下澤先生、田中先生、何かありますでしょうか。

【下澤委員】　特にないです。

【田中委員】　はい、ありがとうございます。私もまだどういうシステムかわかっていなくて、今回の病院連携訓練で使用されるわけですけど、その説明会でも各病院でどこまで入れて、どうやって入れてという話をされる予定ですよ。

【小野担当課長】　はい。病院基本情報に関しては少し説明しようとは思っています。

【田中委員】　本当にいろいろやってみながらになりそうだと思います。ありがとうございます。

【原田部会長】　先ほども確認しましたが、新EMISも病院等々は入力を平時からしていただくという形で、今はもういじっていただくしかないというところでよろしいですか。ありがとうございます。その他、Zoomで御参加の三上先生、何かご意見ありますでしょうか。

【三上委員】　三上です。外出先で顔出しできず申し訳ありません。貴重な御教示ありがとうございました。他の先生もおっしゃるとおり、実際にしっかり使ってみて覚えていけばいいのかなと思いましたが、D24に関して、お話を伺った限りでは、結構便利なシステムなんじゃないかなというふうに感じましたので、こちら側の日程等諸々しっかり調整して、また12月7日の訓練に参加できればと思っています。今日はありがとうございます。

【原田部会長】　はい、ありがとうございます。その他何か御意見御質問等ございますでしょうか

【小野担当課長】　ちなみにD24Hも訓練ができるように、事務局側と交渉しているところで、研修会もどの対象範囲でやれるかわからないですけど、今検討しているところです。

【原田部会長】　はい、ありがとうございます。それでは、今出てまいりました各委員の意見等々を踏まえまして、今後の体制整備を進めていただけるようお願いしたいと思います。

(4) その他

【原田部会長】　それでは、次に行かせていただきます。議題の4、その他でございますが、委員の皆様から、何か御意見はございますでしょうか。

(なし)

【原田部会長】　特にないようなので、事務局から何かありますでしょうか。

【高橋課長】　事務局からも特にございません。

【原田部会長】　それでは、最後になりますが、本日の議事について、議事録署名人を選任する必要がありますが、私から指名してよろしいでしょうか。

(異議なし)

【原田部会長】 それでは、井上委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【井上委員】 承知しました。

【原田部会長】 はい、ありがとうございます。その他、特にないようでしたら、本日の議事は終了とさせていただきます、進行を事務局にお返しします。皆様、ご協力ありがとうございました。

【高橋課長】 原部会長、議事進行ありがとうございました。委員の皆様、関係者の皆様、お疲れ様でした。本日の議事録につきましては、事務局で作成した後に、井上委員に御確認いただきたいと存じます。その後、委員の皆様に送らせていただきます。また、次回の本会議の開催につきましては、令和8年2月頃を予定しております。開催にあたっては、また改めて通知させていただきます。それでは、これをもちまして、令和7年度第2回災害時医療体制検討部会を終了いたします。御参加いただきありがとうございました。

以上、会議を記録し、その内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

議事録署名人 井上 潤一